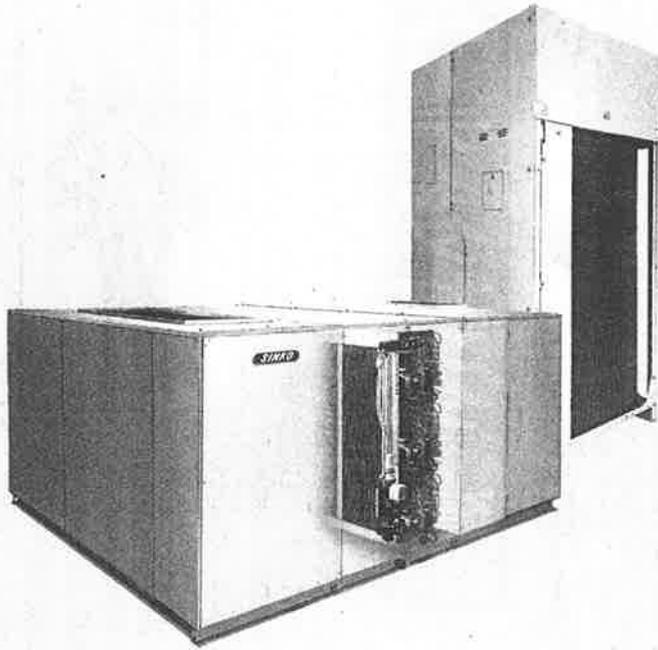


新晃工業

～ヒートポンプ空調機シリーズ～  
省エネと運用負荷低減両立  
次世代見据えた空調システムを提案

次世代を見据えた空調システムの構築には、用途に応じた適切な室内環境を創出するとともに、エネルギー効率の向上と持続可能な社会の実現への貢献が不可欠である。



ヒートポンプ空調機シリーズ  
室外機セパレート型 ヒートポンプ空調機Ⅱ

新晃工業（本社・大阪市北区、社長・末永聡氏）では、これらの社会ニーズを踏まえ、製品やサービスの開発に努めている。  
同社製品の「ヒートポンプ空調機Ⅱ」は、千五百立方メートルから八万立方メートルまでの広範囲な風量選定が可能である。室外機も八馬力から最大五百四十馬力まで選定できる。冷房時には、十℃までの低温吹き出しに対応し、高潜熱処理による室内温度の調整が可能で、さまざまな建物用途に合わせカスタマイズ設計が行える。  
空調機の外形は十メートル単位の設計可能で、設置スペースに応じたジャストサイズでの設計ができる。これにより、限られた空間を有効活用しながら、その場所に最適な空調機を設置できるのも魅力だ。  
エネルギー効率に配慮し

た製品であることも欠かせない。空調機ファンには、高効率なブラゲファンから最適サイズを選定でき、建築物消費エネルギーの中で大きな部分を占める搬送動力を削減する。また、建築物全体のエネルギー管理には、CO<sub>2</sub>制御、外気量管理などを担う空調機と中央監視を連携して運用することも重要となる。  
同社の「ヒートポンプ空調機シリーズ」は、ビル制御プロトコルのデファクトスタンダードであるBACnet/IPを介した通信が可能とする。  
複数系統の空調機の温度データや空調機状態・アラームなどを防災設備や照明などのビル設備と同一の中央監視システムから管理することで、省エネルギーと運用負荷低減の両立を実現できる。  
スクラップアンドビルドで建築用途に合わせて新築していた時代から、既存建築を有効に活用する時代に変化している。空調システムも更新対応への柔軟性がより一層求められる。  
冷凍機やボイラなど熱源機器が不要となる同社の「ヒートポンプ空調機シリーズ」は、既設への空調増強など追加や更新に対応しやすく、保守管理の面でも機器点数が減り、管理工数を削減できる。  
さらに冷媒配管工事が不要な室外機一体型空調機「オクシオ/オクシオGT」（二千立方メートル/時から二万五千立方メートル/時）なら、省スペース・短工期で更新や空調の増強が容易となり、本格化する冷房シーズンに向けて、工場などの熱中症対策や換気改善に有効である。  
同社は、顧客要望に柔軟に対応し、環境や社会情勢のさまざまな変化や課題を意識し、製品やサービスの開発に取り組んでいる。

購読案内  
03-5472-1170